

## 果樹試験場の取り組み 落葉果樹研究担当

落葉果樹研究担当では、佐賀県の落葉果樹の主要品目であるナシ、ブドウ、モモ等を中心に、施設や露地栽培における高品質果実の安定多収生産、省力・軽労化をめざした技術開発を行っています。現在取り組んでいる主な課題は下記の3つです。

### 1. 誰でもできる！ナシのジョイントV字トレリス樹形の生産安定化に向けた技術確立

これまで佐賀県内のナシの栽培は、‘平棚仕立て’が中心でしたが、技術の習得が難しいことが課題となっていました。そこで「誰でもできる！」を目標に管理作業の簡略化や軽労化が期待できる‘ジョイントV字トレリス仕立て’に取り組んでいます。現在では主に、主力品種である‘幸水’における技術開発を行う他、この樹形に適応性の高い品種についての調査を行っています。また、併せて収穫や高所作業を楽に行うための機械の導入も検討しており、ナシ栽培を始めるに当たってのハードルを少しでも取り除くための技術開発に取り組んでいます。



### 2. 高品質・収量2倍をめざしたシャインマスカット“2段仕立て法”の開発

近年消費者から人気が高い‘シャインマスカット’は、着色不良の心配がなく樹の生産力も高いため、生産者にとっても魅力的な品種です。しかし、ブドウは1樹に対して着果量が多過ぎると糖度が高くないため、品質の高い果実を生産するためには着果量を制限する必要があります。そこで、園内の樹の数を増やして、高品質を維持できる着果量を守りながら収量を増やす“2段仕立て法”の開発に取り組んでいます。この仕立て方では、ブドウの房を整えるための管理を肩より低い位置でできるため、肩を上げて行う慣行の仕立て方より楽に作業ができるメリットもあります。



### 3. 水田におけるモモ生産技術の開発・正接栽培における根域制限栽培技術の開発

近年、増加している水田の放棄地について、落葉果樹ではモモでの活用が期待されます。しかし、土壌水分が過剰な圃場でのモモ栽培は樹体生育にも悪影響となります。そこで、地下水位から根群を離し降雨の流入を抑制する“畝立てマルチ”の開発を行っています。

また、モモ栽培では植え替え時にいや地対策として根の掘り起こしなどに多大な労力がかかります。その対策としてルートラップシートでの“根域制限栽培”を開発しています。この方法を用いることで、植え替え時の労力が大きく軽減されます。



### 4. 果樹等の幼木期における安定生産技術の開発

近年、県内のナシ園において、細菌性のさび色胴枯病という病害が発生しています。この病害では、樹の幹から赤い樹液が漏れ出し、さび色に変色する症状が発生します。果実の安全性には全く問題ありませんが、この病害が発生すると樹が衰弱し、症状が進行すると枯死に至ることもあるため、生産者の経営を脅かします。これまでの調査から、樹の土壌環境の悪化が病害の発生に関与していることが考えられるため、健全な樹を育成するための土壌改良方法を中心に対策技術の開発に取り組んでいます。

